

體格 [明治三十三年文部省令第四號學
生、生徒身體検査規定ニ準據ス]

第二號

國語(讀書) 數學 理科 地理 歴史

(『東京音樂學校一覽 從明治四十年至明治四十一年』第四より)

なおこの年度より「官費生募集規程」は「第四 規則」から独立して「第五」となる。

二 カリキュラム

以下は、本節一項で取り上げた『東京音樂學校一覽』の「規則」のうち、「學科課程」だけを取り出し、その変遷を整理したものである。明治二十二年以降、カリキュラムが目立った改正がみられるのは二十六年、三十三年、四十二年で、これは規則の変遷と対応している。ただし二十六年のカリキュラム改正はそれほど大がかりなものではない。四十二年については「規則」同様、第二巻で扱うこととし、大きく変更された場合以外はここでも改正箇所のみを記載するにとどめる。
以下のカリキュラムの資料の出典はすべて『東京音樂學校一覽』である。また年度の表記は前出の「規則」と同様である。

明治二十二年～二十三年

第二 學科課程

第一 豫科ノ學科課程ハ左ノ如シ

倫理	倫理要旨	一年間	毎週	一時
唱歌	單音唱歌	同	同	十時
洋琴	右手左手練習、双手練習	同	同	九時

音樂論	樂典	同	同	三時
文學	和漢文	同	同	三時
英語	讀力	同	同	二時
體操、舞蹈	徒手運動、練習、運動、方舞、演習	同	同	二時

第二 師範部學科課程ハ左ノ如シ

第一年

倫理	倫理要旨	一年間	毎週	一時
聲樂	高等單音唱歌、複音唱歌	同	同	八時

器樂	鋼琴	觸擊法、發相法等、樂曲練習	同	同	十時
風	バイオリン	「バイオリン」生徒ハ四時間ヲ欠ク、姿勢、用弓法、手指運用法、樂曲練習	同	同	四時

音樂論	音樂理論	一年間	毎週	二時
音樂史	本邦及歐洲音樂史	同	同	二時

文學	詩歌學、作歌	同	同	二時
英語	讀方、作文、文法	同	同	三時
體操、舞蹈	徒手運動、練習、運動、方舞、演習	同	同	二時

倫理	倫理要旨	一年間	毎週	一時
聲樂	諸重音唱歌	同	同	八時

器樂	鋼琴	觸擊法、發相法等、樂曲練習	同	同	十時
風	バイオリン	姿勢、用弓法、手指運用法、樂曲練習	同	同	十時
箏	調絃法、單彈法、複彈法、初歩	同	同	二時	

第三 專修部學科課程ハ左ノ如シ

音 樂 論	和聲大意	同	同	二時
英 語	讀方、作文、文法	同	同	二時
教 育	教育學大綱 唱歌教授法	同	同	三時
體操、舞蹈	徒手運動、練習 運動、方舞演習	同	同	二時
倫 理	倫理要旨	一年間	每週	一時
合 唱 歌	高等單音唱歌 複音及諸重音唱歌	同	同	八時
器 樂	洋 琴 手指練習、音階練習 特習法、樂曲練習	同	同	十時
	バイオリン 姿勢、用弓法 手指運用法	同	同	四時
音 樂 論	音樂理論	同	同	二時
音 樂 史	本邦及歐洲音樂史	一年間	每週	二時
文 學	詩歌學、作歌	同	同	二時
外 國 語	英語讀方 作文	同	同	三時
體操、舞蹈	徒手運動、練習 運動、方舞演習	同	同	二時
倫 理	倫理要旨	一年間	每週	一時
聲 樂	合 唱 歌 高等單音唱歌 複音及諸重音唱歌	同	同	一時
獨 唱 歌	練習 歌曲演習	同	同	八時
器 樂				

洋 琴	音階練習、特習法 樂曲練習	同	同	十時
風 琴	觸擊法 發相法等	同	同	八時
バイオリン	手指運用法、特習法 樂曲練習	同	同	十時
ヴィオラ	姿勢、用弓法、手指運用法 特習法、樂曲練習	同	同	十時
ダブルベース	姿勢、用弓法、手指運用法 特習法、樂曲練習	同	同	十時
フリニット	姿勢、用息法、手指 運用法、樂曲練習	同	同	六時
ホルニット	調和及對位ノ理論及 實用、樂曲製作法	同	同	三時
和 聲 學	英語讀方、作文、文法 伊語發音及讀方	同	同	六時
外 國 語	教育學大綱 音樂教授法	同	同	二時
教 育	徒手運動、練習 運動、方舞演習	同	同	二時
體操、舞蹈				
倫 理	倫理要旨	一年間	每週	一時
聲 樂	合 唱 歌 高等單音唱歌 複音及諸重音唱歌	同	同	一時
獨 唱 歌	高等歌曲	同	同	六時
器 樂	洋 琴 音階練習、特習法 樂曲練習	同	同	九時
	風 琴 樂曲練習	同	同	六時
	バイオリン 手指運用法、特習法 樂曲練習	同	同	九時
	ヴィオラ 姿勢、用弓法、手指運用法 特習法、樂曲練習	同	同	九時
	ダブルベース 姿勢、用弓法、手指運用法 特習法、樂曲練習	同	同	九時
	フリニット 姿勢、用息法、手指 運用法、樂曲練習	同	同	六時
	ホルニット 調和及對位ノ理論及 實用、樂曲製作法	同	同	三時
	和 聲 學 英語讀方、作文、文法 伊語發音及讀方	同	同	六時
	外 國 語 教育學大綱 音樂教授法	同	同	二時
	教 育 徒手運動、練習 運動、方舞演習	同	同	二時
	體操、舞蹈			

和聲學	調和及對立ノ理論及實用、樂曲製作法	同	同	三時
文學	詩歌學、作歌	同	同	二時
外國語	英語讀方、作文、文法、伊語發音及讀方	同	同	六時
教育	教育學大綱、音樂教授法	同	同	二時
體操、舞蹈	徒手運動、練習運動、方舞演習	同	同	二時

明治三十三年～三十四年

規則改正に伴い、カリキュラムも以下のように改正となる。本科の樂歌部、研究科の作歌部はこのとき置かれ、四十二年四月の規則改正のさい廃止された。ただしこの間の『東京音樂學校一覽』の生徒調を見ると、樂歌部の生徒は三十三年に入学した一名のみで、作歌部はついに一名も入学しなかつたようである。

規則中カリキュラムに相当する第四條、第十條、第十三條、第十四條は次のとおり。

第四條 豫科ノ學科目ハ倫理、唱歌、ピアノ、樂典、寫譜、國語、英語、體操、方舞トシ課外ニ漢文ヲ置ク

第五條 本科ヲ分チテ聲樂部器樂部樂歌部トス其學科目左ノ如シ
 聲樂部ハ倫理、獨唱歌、諸重音唱歌、ピアノ又ハオルガン、和聲學、樂典、音樂史、音響學、樂式一班、審美學、歌文、外國語、體操、方舞トス

器樂部ハ倫理、器樂、諸重音唱歌、和聲學、樂典、音樂史、音響學、樂式一班、審美學、歌文、外國語、體操、方舞トス
 樂歌部ハ倫理、歌文、支那詩文、西洋詩文、歴史、諸重音唱歌、

ピアノ又ハオルガン、和聲學、樂典、樂式一班、音樂史、音響學、審美學、外國語、體操、方舞トス
 第六條 隨意科トシテ教育學及教授法ヲ課シ課外學科トシテ生理學、心理學、樂器構造法及調律法ヲ置ク
 第七條 豫科ノ學科課程左ノ如シ

豫科學科課程

學科	科目	時間	數
倫理	倫理		一
唱歌	唱歌		八
ピアノ	ピアノ		三六
樂典	樂典		一
寫譜	寫譜		一
國語	國語		四
英語	英語		四
體操	體操		二
方舞	方舞		二
課外漢文	課外漢文		二
計	計		二二六
練習	練習		一〇八

*印アル科目ハ女生徒ノミニ課ス

第八條 本科ノ學科課程ハ左ノ如シ

計	歌文	西洋詩文	作歌	合奏練習	管絃樂指揮法	聽音	作曲
二練習 一三						三	一
二同 一三				二	二	三	二
二同 一三				二	二	三	二
二同 一三	四	二	四				一
二同 一三				二	二	三	四

第十條 研究科第二學年ニ於テハ聲樂、器樂、作歌、作曲ノ内一科

目ヲ專攻セシム

第十三條 師範科學科課程左ノ如シ

甲種師範科學科課程

學科目	學年	第一年時間數	第二年時間數	第三年 第一學期 第二學期 時間數
倫理		一	一	一
唱歌		一〇	八	八
オルガン 又ハピアノ		三	二	二
樂理		樂典 寫譜 二	樂典、 音聲論 二	
和聲學			二	二
音樂史			二	二

計	體操遊戯 及*諸禮	英語	唱歌教授法	教育學	詩歌評釋
練習 一〇 二四	二	二		二	二
同上 二〇 二四	二		一	二	二
同上 一五 一九	二		實地授業 若干時		二

*印アル科目ハ女生徒ノミニ課ス

乙種師範科學科課程

學科目	時間數
倫理	一
唱歌	一〇
オルガン	三
樂理	樂典、寫譜 二
唱歌解釋	三
唱歌教授法	第三學期 一
體操遊戯及*諸禮	三
計	練習 一一 二三

*印アル科目ハ女生徒ノミニ課ス

第十四條 甲種師範科生徒ニハ「ヴァイオリン」ヲ課スルコトアル

。印アル科目ハ生徒ヲシテ一科目ヲ撰擇セシメ*印アル科目ハ

女生徒ノミニ課ス

明治三十五年〜三十六年

規則第十三條中、甲種師範科の学科目と時間数に変更あり。

第十三條 師範科學科課程左ノ如シ

甲種師範科學科課程

學科目	學年		
	第一年時間數	第二年時間數	第三年時間數
倫理	一	一	一
唱歌	八	八	八
オルガン又ハピアノ	三	二	二
樂理	二	一	二
和聲學		二	二
音樂史	一	二	
詩歌評釋	二		
教育學	二	二	
唱歌教授法		一	實地授業 若干時
國語及漢文	四	五	五
英語	四	五	五
調律練習			若干時
體操遊戲及*諸禮	二	二	二
計	練習六乃至二二五	同上二六	同上二〇

明治三十六年〜三十七年

規則第五條中、声乐部と楽歌部に關して一部変更された。また第七條中、予科のピアノと写譜に關して改正され、第八條中、本科においては声乐部の器樂に關して改正されたほか、随意科目と他の学科の課し方についての説明が追加された。そして第九條の研究科においては、器樂部の器樂の時間数がふえた一方、唱歌指揮法、聴音、管弦樂指揮法の学科目が削除された。さらに第十三條中、甲種師範科における實地授業の扱いに關する説明が追加された。

以下、改正条項、改正箇所を挙げる。

第五條 本科ヲ分チテ聲樂部、器樂部、樂歌部トス其學科目左ノ如シ
 聲樂部ハ倫理、獨唱歌、諸重音唱歌、器樂、和聲學、樂典、音樂史、音響學、樂式一班、美學、歌文、外國語、體操、方舞トス
 器樂部ハ倫理、器樂、諸重音唱歌、和聲學、樂典、音樂史、音響學、樂式一班、美學、歌文、外國語、體操、方舞トス
 樂歌部ハ倫理、歌文、支那詩文、西洋詩文、歴史、諸重音唱歌、器樂、和聲學、樂典、樂式一班、音樂史、音響學、美學、外國語、體操、方舞トス

第七條 豫科ノ學科課程左ノ如シ

豫科學科課程

學科目	時間數
ピアノ	三乃至五

寫譜	第一、第二学期	一
	練習	二三乃至二六 九乃至一二

第八條 本科ノ學科課程左ノ如シ

本科學科課程

部名	學年			器樂部時間數	器樂部時間數	他樂器專門	樂歌部時間數
	第一	第二	第三				
聲樂部	第一	第二	第三	同上	同上	同上	同上
	練習	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
器樂部	第一	第二	第三	同上	同上	同上	同上
	練習	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

隨意科目ヲ課スルトキハ他ノ學科目ノ教授時數若干ヲ減シテ之

ニ充ツルコトアルベシ

第九條 研究科ハ聲樂器樂作歌及作曲ヲ專攻スル者ノ爲メニ之ヲ設

ク其學科課程ハ左ノ如シ

研究科學科課程

部名	學年		聲樂時間數	器樂時間數	作歌時間數	作曲時間數
	第一	第二				
計	第一	第二	同上	同上	同上	同上
	練習	同上	同上	同上	同上	同上
	同上	同上	同上	同上	同上	同上

第十三條

實地授業ヲ課スルトキハ他ノ學科目ノ教授時數若干ヲ減シテ之ニ充ツルコトアルベシ

明治四十年〜四十一年

二月、第十三條中、甲種師範科のカリキュラムから詩歌評釈と英語を削除し、音楽史と国語を増加することが仮規則の形で追加され、施行される。これは四十二年に正式に改正される。

第十三條

當分ノ内詩歌評釋及英語ヲ除キ第一年時間數音樂史一ヲ二ニ國語及漢文四ヲ六ニ改ム

〈參考資料〉

明治三十七年二月に行われた甲種師範科の入学試験問題を掲載する。

第一號 國語科入學試験問題

一、左の文を簡明に解釋すべし

仁和寺に或法師年よるまで石清水を拜まざりければ心憂くおぼえてある時思ひ立ちてたゞひとりかちより極樂寺高良などを拜みてかばかりと心得て歸りにけり偕かたへの人に逢ひて年頃思ひつる事はたし侍りぬ聞きしにも過ぎてたふとくこそおはしけれそも参りたる人ごとに山へ登りしは何事かありけむ

大納言入道召し捕られて武士ども打ちかこみて六波羅へゐて行き